

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和4年5月12日

事業所名 放課後等デイサービス ぴあ 保護者等数(児童数) 15名 回収数 12 割合 80.0%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	92%	0%	0%	8%		プログラムを行うスペースは十分に確保しています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	100%	0%	0%	0%		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	100%	0%	0%	0%		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	100%	0%	0%	0%		
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	92%	8%	0%	0%		通常時や休日対応時等ご利用に合わせて、集団や個別のプログラムを用意し、活動の目的が身につくように工夫して療育を進めています。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	83%	8%	0%	8%		現在コロナ禍のため自粛中。状況が整えば再開予定です。
保護者 への 説明 等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%	0%	0%	0%		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%	0%	0%	0%	当日の様子を詳しくファイルに記載してくれ、主人とも共有しています。	有難うございます。今後も丁寧に伝えて参ります。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%	0%	0%	0%	毎回、丁寧に支援してもらっています。	有難うございます。更に親支援を充実させて参ります。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	67%	25%	0%	8%	コロナの為自粛されていますが、「びあトーク」を再開してほしい。	状況が好転すれば「保護者会」を再開して参ります。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%	0%	0%	ママに困ったことがないかと確認してくれ、細やかな対応をしています。	有難うございます。常に苦情や相談がしやすい環境を整えて参ります。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%	0%	0%	0%		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	92%	8%	0%	0%		送迎時の保護者面談や、療育ノート、ラインの媒体で日中活動の写真をお届けしています。また、業務の自己評価は「びあHP」でお知らせしています。
14 個人情報に十分注意しているか	92%	8%	0%	0%		公的機関や放デイ間の情報提供以外に外部に情報を出すことはありません。	
非常 時 等 の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	100%	0%	0%	0%		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	100%	0%	0%	0%		
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	83%	17%	0%	0%	①本人も行くことをとても楽しみにしており楽しく通っています。 ②楽しかったと帰ってくるが、友達と遊びに行きたいと放デイに行き渋ることがある。	有難うございます。何よりも本人が行きたいと思っ下さる療育環境を更に充実できるように、引き続き取り組んで参ります。
	18 事業所の支援に満足しているか	100%	0%	0%	0%		

\*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせることで実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年5月12日

事業所名 放課後等デイサービス ぴあ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	個別対応は事務スペースで実施。プログラムを行うスペースは十分に確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	専門職である保育士を定数2名に対して更に2名を追加配置しており、計4名の保育士で手厚い療育を行っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	事業所内は全面フラット。入口はスロープでトイレや手洗い場もフラットにして段差をなくし、つまづきや転倒の防止に努めている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%	始業前に短時間で打ち合わせ。つねに個々の職員との振り返りを通じて目標に対しての現状認識を共有している。	シフトの関係で、全体会議で一堂に会するのは難しいが、工夫して行えるように調整していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	アンケート結果、保護者会(現在はコロナ禍のため開催自粛)、家庭訪問などにより、保護者の意向を把握し、迅速な改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	「放課後等デイサービスぴあ」のホームページに公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	常に、大阪府障がい児通所支援事業の研修会を積極的に受講し、業務改善に繋げている。	第三者による外部評価については、今後の課題として実施に向けて調査検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	職員を順次、大阪府、門真市の研修講座に参加させ、所内で伝達講習を行って全職員の資質向上を図っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	利用者の主治医、担当心理士からの情報と支援相談員の情報、及び日々の行動観察記録を活用し、保護者との面談情報を加味して個別支援計画を策定し、療育を行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	「マキノ・中島式」発達検査を使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%	児務管を中心に利用児童の支援計画を基に職員個々で展開、役割分担、課題の確認を行っている。	シフトの関係で、全体会議で一堂に会するのは難しいが、工夫して行えるように調整していく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	通常時や休日対応時等ご利用に合わせて、集団活動や個別活動のプログラムを用意し、子供達の興味を引き出して、活動の目的が身につくように工夫して療育を進めています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	毎月の行事、三期の休暇時の予定を明確にし、個々の課題を決めて、(コロナ禍以前は)市民プラザや図書館、公園、買物実習、老人施設への職場体験、個々人に合わせた手作り教材での学習などを通じて、協調性、社会スキルの向上を図っていた。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	学習、工作、手芸、パソコンなどの個人活動と、異年齢を交えたゲーム、集団運動遊びなどの集団活動を適宜組み合わせ支援計画を作成している。 ※コロナ禍により、一部自粛している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80%	20%	シフトの関係で短時間ながら、支援プログラム、役割分担、注意点などを確認、職員間の意思疎通を図っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80%	20%	勤務シフトの関係で早帰りの職員には、翌日の始業時に振り返りと反省を行い、職員間で確認しあっている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	保護者向けの「サービス提供記録帳」と個々の児童の「療育記録」「学習記録」を保育士が共同で記録し、全員が確実に読んで支援に役立っている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	個別に定期的にモニタリングを実施しており、必要があれば計画の見直しをしている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	ガイドラインに沿って支援を組み合わせ、支援に変化を付けるようにしている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	主として児発管が参加しており、内容の報告と会議録や資料の供覧で、職員の間で共通理解を図っている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	小中学校や支援学校との情報共有、連絡調整には特に注意を払っており、齟齬をきたさないように連携を密にしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			該当事由なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	関係機関を訪問し、利用者の情報提供を受けるとともに、就学後の療育の進捗状況を報告して、相互理解を深めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	当該就労支援事業所を訪問し、「びあ」利用児童の情報提供を行うとともに、卒業前の療育の進捗状況を報告して、就労支援にスムーズに移行できるよう努めている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	大阪府障がい児通所支援事業所育成事業や門真市児童発達通所支援事業所連絡会と連携し、研修や助言等を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%	0%	「びあ」利用児童は、初めての人や場所にパニックを起こすので、近接する公園で運動遊びをしている時に、顔見知りとなった地域の子どもたちとの交流を図っている。※現在コロナ禍のため自粛中。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	門真市児童発達通所支援事業所連絡会など、積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	毎日の「サービス提供記録帳」で家庭での様子、問題行動、施設での様子、発達状況などの情報を共有し、家庭連携と保護者会(コロナ自粛中)で様々なニーズを受けて課題を明確にしている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	80%	20%	一昨年、4月からペアレント・トレーニングのプログラムを実施予定であったが、コロナ禍のために延期状態となっている。	コロナ禍状況が好転するまで、保護者との連携を密にし、すぐに相談、家庭連携などで対応、親支援に注力し続けている。コロナ禍が落ち着けば、ペアレント・トレーニングのプログラムを実施する予定である。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約当初に詳しく説明するとともに、随時状況に応じて保護者に対して必要な説明を丁寧に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	家庭連携、送迎時の面談、電話での相談などに即応している。親支援を重要な柱と位置付けているので、利用児童や保護者に、少しでもいつもと違った様子が見えれば、こちらから積極的に声掛けをして相談しやすい環境を作っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	例年は、毎月、「保護者の会」を開催して保護者同士の連携を図り、活発な意見交換を行っていたが、コロナ禍のために休止状態が続いている。保護者は再開を待ち望んでいるが、現状は厳しい。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情には、どんな小さなトラブルでも「サービス提供記録帳」や電話で保護者に説明し、迅速かつ丁寧な対応を心がけている。常に課題に対する解決策を見出す努力を続けている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	会報は発行していないが、毎日の「サービス提供記録帳」や、必要に応じてチラシを配布して、活動状況の報告や行事予定の周知、健康等の注意喚起を行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	大阪府個人情報保護条例の規定通り配慮している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	特に、「視覚」から情報が入るように配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	近くの老人施設に訪問交流、近くのお弁当屋で買物実習、餅つきの餅を近隣に配布など、積極的に交流している。※コロナ禍により自粛中	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	「びあ」としての新型コロナ対策マニュアルや、緊急時対応マニュアルを作成し、周知している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	防災タペストリーなどを使って防災意識を高めて、避難コースを実際に歩いたり、初期避難などの訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	80%	20%	順次職員を虐待防止研修に参加させていたが、2年前からコロナ禍の為に研修が開催されていない。	ビデオを使った所内研修を充実させていく予定。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			該当事由なし	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	タマゴアレルギーや、甲殻類アレルギーの児童がいるが、保護者を通じて医師の指示を確認し、家庭の協力も得て、適切に対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	事業所内で周知し、改善を図っているが、更に徹底していく。	